

令和5年度 結果の分析及び今後の改善策

(中間・最終)

中学校区 校番 17 学校名 呉市立昭和北中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	<p>基礎的・基本的な内容の習得を図り、思考力・表現力(コミュニケーション力)を養う。</p>	<p>分かりやすい授業による学習意欲の喚起</p> <p>読書活動の推進</p> <p>自分の志を表現できる生徒の育成</p> <p>言語能力、情報活用能力、課題発見・解決能力等の育成</p>	<p>○授業が分かりやすいと感じている生徒の割合(アンケート調査)は83%で目標値に達していない。上半期(85%)から下がっている。上半期のアンケート調査、「授業の最後に『めあて』が達成できたかどうか『振り返り』を行っています。」が79%であり、下半期に向けて授業改善に取り組んだ。しかし、下半期の授業アンケート結果が73%と下がる結果になった。十分な取り組みができていないことが分かる。</p> <p>○授業において友だちの意見が参考になると感じている生徒の割合(アンケート調査)は90%で目標値に達している。しかし、上半期のアンケート調査(91%)からはわずかに下がっている。</p> <p>○1か月の間に本を1冊以上読んでいる生徒の割合が63%で目標値に達している。しかし、上半期のアンケート調査(64%)からはわずかに下がっている。</p> <p>○中学3年時に自分の志、理由、道筋を3文以上・自分の言葉で表現できる生徒の割合は94%で目標値には達していないが高い値である。</p> <p>○数学・英語について、通過率の平均増加率は12.5%(数学11%、英語14%)であった。目標値に達している。</p>	<p>○今後も「めあて」「振り返り」を重視した授業改善と各教科で分かりやすい授業に向けた取り組みをすすめる。</p> <p>○今後も、ペア・グループ学習やICTを活用し、授業改善をすすめる。</p> <p>○「朝読書にきちんと取り組んでいます。」の1年生の割合が高く、朝読書が定着してきている。今後も継続して読書活動を推進する。目標値の修正をする。</p> <p>○今年度から帰りの会で「わくわくスピーチ」に取り組んでいる。取組を継続し表現力の育成をすすめる。</p> <p>○「全国学力・学習状況調査」で問われていることが今、求められている力であるので、それを意識した授業改善等の取組をすすめる。</p>
	<p>基本的な生活習慣を身に付け、進んで他者とかかわりながら、社会に貢献しようとする生徒を育成する。</p>	<p>「自らへの自信」の涵養及び道徳的実践力の向上</p> <p>規範意識を涵養</p> <p>安心・安全な環境</p>	<p>○授業を通しての自己有用感の向上 自分にはよいところがあると思う生徒の割合が76%と目標を下回った。2、3年生と学年が上がるにつれて低い傾向がある。2、3年生と授業規律等に課題がある生徒が多く、授業での個別指導や声かけができていないことが原因だと考えられる。また、3年生は進路について考えるにつれて、希望と現実のギャップに自己肯定感が低いと考えられる。</p> <p>○生徒指導規定を核とする組織的な指導の推進による自己指導能力の育成 学年を超えた情報交換と校内巡視により時間を守る生徒の意識は高まってきている。しかし、一部の生徒に限るが服装や髪型など規定違反の生徒も増えてきている。(服装規定守れている肯定的評価1年91%2年87%3年94%)指導にも従わない生徒もいる。3年生は進路を意識して、きまりを守れている生徒が増えてきた。</p> <p>○災害から自分の命を守る意識の向上 防災訓練や総合や道徳での防災学習により「災害時に避難する場所や避難の仕方について理解している生徒の割合」が93%と目標を達成できた。しかし、「自分が住む地域に起こりやすい災害」について理解している生徒の割合は80%と低い。授業や防災訓練で災害について学習したが、学年により時間が十分確保できていないことがあった。</p>	<p>○授業内だけでなく、日々の生徒の活動に対する肯定的評価を増やしていく。 進路面談など日々の生徒の様子を引き続き観察していく。</p> <p>○引き続き学年間を超えた教職員同士の情報交換の場を継続していく。 教職員だけでなく、生徒会執行部と生徒指導規定の見直しを行い、生徒会からの呼びかけとし、生徒同士が声かけしやすいキャンペーンを設定していく。 定期的な教職員での部会を持ち、指導を統一していく。</p> <p>○全学年で共通した教材や資料提供していく。 地域の方との防災訓練や講演会を実施していく。</p>

★	<p>活力があり、主体的に体力・運動能力の向上に取り組む生徒を育成する。</p>	<p>活力を喚起する体験活動の充実</p> <p>家庭・地域・学校生活を通しての主体的な体力づくり、運動能力の向上</p>	<p>○活力を喚起する体験活動の充実</p> <p>「部活の時間は楽しいです」は72%である。部活動の活性化に課題が残った。</p> <p>○家庭・地域・学校生活を通しての主体的な体力づくり、運動能力の向上</p> <p>体育の授業及び「くれ・チャレンジマッチ・スタジアム」を活用することで目標達成を目指しているが、男子は握力、上体おこし、長座体前屈、50m走、立ち幅跳び、ボール投げで全国平均を上回り、女子は握力、長座体前屈、50m走、ボール投げで全国平均を上回ること、4種目が全国平均を上回ることができた。</p>	<p>○部活動の活性化</p> <p>楽しいだけでなく、辛いことや苦しいことを乗り越えることで味わう充実感・達成感を得られる部活動経営に取り組む。</p> <p>○今後は女子の体力向上にも力点を置いた指導を行う。</p>
業務改善	<p>持続可能な教育環境の整備</p>	<p>教育活動へのやりがい</p> <p>長時間勤務の削減</p>	<p>○教職員間のコミュニケーションの充実</p> <p>教職員研修や親睦会などコロナ禍以前の活動が戻り、教職員がお互いの考えを出し合う場面も設定できたことにより、職員室での教職員のコミュニケーションも昨年に比べて深まった。</p> <p>○週1回の定時退校の徹底</p> <p>水曜日を定時退校日としている。部活動がないため普段より教職員の退校時間は早いけど定時退校の徹底はできていない。</p> <p>○部活動休業日の定着</p> <p>会議はできる限り少なく、校内研修や職員連絡会は夏季休業中や部活動休業日、定期テストの午後を利用して行った。</p> <p>4月から1月に時間外勤務が月45時間を越えない教職員の人数は、月平均が22人であった。これは全体の56.2%にあたり目標を達成できなかった。しかし、昨年度は54%であり、少しであるが数値はよくなっている。教職員は部活動が終了し、生徒が下校してからの授業準備や校務等になるため厳しい状況である。</p>	<p>○教職員間の繋がりを大切に、お互いに援助希求しあえる関係を構築する。</p> <p>○生徒が落ち着いて学習に向かえるように取り組む。</p> <p>○会議や研修の開催日や内容を引き続き精査していく。</p> <p>○入退校管理システムを活用する。</p>